

テストノートの作り方④ 新分析方法

英語科では「テストノート」を大切な学習の機会ととらえ、力を入れて指導しています。それは、自分自身でテストの内容を振り返って学習することで、それまで学習したことをきちんと身に付けられると考えているからです。この「振り返り学習」は、他にも発表後のレポートなどでも実施されていますが、くしくも今年度末に発表され、平成33年度より完全実施される予定の次期「学習指導要領」(何を、どう学習するか)の法律のようなもの)の改訂の主旨でも、振り返り学習は「深い学び」を促すものとして取り上げられています。すでに本校で長年行ってきたことが正しかったことが証明されたわけです。

そこで、本格的な学習が始まった後期中間考査を機に、新たなテストノートの提案をしたいと思います。

1. 次のものをきちんと張り付ける ※最初にやるべき作業は同じです。

- ①問題用紙 ②放送台本 ③模範解答 ④解答用紙 ⑤再実施解答用紙
⑥観点別得点表(レーダーチャート) ⑦得点度数分布表 ⑧問題分析用紙(新規)

※⑥について→表を完成し、グラフも描いて色を塗る。 ※3参照

★自己達成率=自己得点÷満点×100

※⑦について→度数分布表の自分の得点のところに色を塗る(自分の位置の確認)。

2. テストをやり直す

もう一度問題に挑戦し、本当に理解していることを確認する

テストでは○になっているものの、本当のところではなぜそうなるのかわからないことがあるものです。テストを機会に自分の理解度を高めましょう。放送問題は録音テープを再度聴いて確認しましょう。解答は再テスト記録用紙(No.134)に書いて貼る。

3. (出題目的を分析する)・正解への道筋を説明する(新規)

「文法理解」と「表現力」の一部についてのみ、別紙の「問題分析・類題作成用紙」(No.138)で示された課題を行う。その課題とは次の2つ(実際は②のみ)である。

- (1) 出題目的(どのような理解力・表現力が問われているのか)を分析する。
→今回は各大問の①に<例>として代表的な目的を書いてあるので省略してよい。
- (2) 正解への道筋(何をどう考え、どのような表現を採用すればいいか等)を説明する。
→具体的な考え、表現、留意点等を、出発点から答えを書くところまで明らかにする。
※ここが最も大切である。他人に説明できて初めて「理解している」と言える。

Q1: 誤答分析はやらなくていいんですか?

A1: はい、やらなくてけっこうです。リスニングや語彙の誤答分析も大切なのですが、「よく聞き取れなかった」とか「練習不足だった」のような、「感想」や「反省」のようなものが多く、「分析」をしてもらうのが難しそうだったので。そこで、全員に課す内容を最も大切な「文法理解」と「表現力」に絞ることにしました。不正解や不明だった人にはこれを機会に理解してもらい、正解した人にはさらに強固な力としてもらいたいと思います。

Q2: 今までのように他の問題の分析をしてもいいですか?

A2: もちろんかまいません。ただし、本気できちんと分析してください。ノートに書く量をかせいで「やったつもり」にはしてほしくありません。

4. コメントを書く ※最後のまとめはこれまでと同じです。

以下の学習の過程に沿って、自分の取り組みを振り返ってみましょう。

- ① 普段の授業 (集中度・積極性・練習の仕方・声の大きさ・ペア練習など)
② 普段の家庭学習 (毎日の復習・今までの復習・基礎英語・他の学習・積極性他)
③ 今回のテスト勉強 (内容・始める時期、土日の使い方、他教科とのバランス他)
④ 全体を振り返っての感想、今後の課題や目標など

5. 提出日 12月17日(土) 授業のないクラスは注意!

